

---

## 中学受験過去最高に

### 都心回帰と中高一貫人気で50,000人の大台を突破(四谷大塚調べ)

---

四谷大塚は、首都圏の小6生を対象に、9月から12月まで計4回の模擬試験を実施。先月24日の第1回 合不合格判定テストには、中学受験の模試としては全国最多となる19,345名が受験しました。例年、首都圏における中学受験者の約4割が同模試を受験いたしますが、今年は、昨年より2,241名、12.9%増となりました。また10月22日実施の第2回 合不合格判定テストの申込状況(10/17時点)では、10年ぶりに20,000人を突破する情勢からも、首都圏の中学受験者数が大幅に増加するであろうことが推測できます。

### 受験者増3,131名に対し、定員増はわずか433名 どこにも入学できない受験生が激増する

四谷大塚では、一都三県の来春の中学受験者数は、前年より3,131名増の50,231名になると予想。これに対し、募集定員は41,638名(2006年10月10日判明分)で、前年より433名しか増えておらず、どこにも入学できない受験生(理論値)が、2006年の5,895名から、2007年は8,593名と146%の大幅増となり、中学受験は昨年に比べ激戦となることが予想されます。

中学受験の激化には、二つの要因があると四谷大塚は分析しています。ひとつは小6人口そのものの増加。そしてもうひとつは中高一貫校の人気。

少子化が進行していると危惧されるなか、現小学6年生は、一都三県で306,465人と、昨年に比べ12,690人増加しています。これには都心回帰の要因もあり、全国に対する一都三県の比率も昨年より0.3ポイント上昇し、24.9%となっています。小6生のおよそ4人に1人は一都三県に住んでいるということになります。

また、高校からの募集を削減(廃止)し、中学から生徒を確保するなど、公立高校の中高一貫化、私立高校の中学募集の強化が進んでいます。来春は、東海大附属高輪台、千葉市立稲毛高附属、さいたま市立浦和の三校が、新たに中学募集をはじめます。一方受験生の立場からも、中高一貫校の人気は年々高まっています。

---

#### ○株式会社四谷大塚について、

1954年創業の中学受験の老舗。予習シリーズをはじめとすると教材と、毎週行われるテストに定評あり。首都圏に自塾を15校運営すると同時に、提携塾によるYTネットを展開している。2006年10月2日、東進ハイスクールを経営する株式会社ナガセが、四谷大塚の全株式を取得。東進グループとしてのスタートを切った。

#### ○本件に関するお問い合わせ先

株式会社ナガセ 広報部(担当:市村・植木)

〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町1-29-2

電話 0422-44-9001 FAX0422-44-9129

ホームページ [www.toshin.com](http://www.toshin.com) E-mail [pub@toshin.ac.jp](mailto:pub@toshin.ac.jp)

## 資料①

## 小学6年生児童数

	2006年度在籍	2005年度在籍	増減	前年比
一都三県計	306,465人	293,775人	12,690人	104.3%
全国計	1,231,932人	1,192,343人	39,589人	103.3%
一都三県比率	24.9%	24.6%	0.3%	

## 資料②

## 中学受験者数(一都三県)

	2007年度入試予測	2006年度入試実績	増減	前年比
受験者数	50,231人	47,100人	3,131人	106.6%
募集定員	41,638人	41,205人	433人	101.1%
入学できない人数	8,593人	5,895人	2,698人	145.8%

※2007年度は、四谷大塚の予測

## 資料③

## 四谷大塚 合不合格判定テスト受験者数

	2006年度	2005年度	増減	前年比
第1回(9月実施)	19,345人	17,135人	2,210人	112.9%
第2回(10月実施)	※20,164人	17,923人	2,241人	112.5%

※2006年第2回の20,164は、10/17日現在の申込数